

ごみ組成調査（10月）の結果について

平素、町の環境衛生行政に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ごみの組成調査は、上伊那広域連合一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に基づく分別精度、ごみ減量化及び資源化等の施策の効果・検証のためのデータ収集を目的に実施しております。令和7年度からは年3回、可燃ごみ、不燃ごみのほか新たに資源プラが調査に加わり実施することとなりました。また、収集所の調査箇所については年度毎決定しており、第2回目を10月に実施しましたのでその結果についてご報告いたします。

この結果、燃えるごみに乾電池が入ったままの小型家電が混入しているケースや、資源プラスチックごみにアイスの棒など混入しているケース、燃やせないごみに小型家電やガスが残ったライターの混入があり、回収作業員がケガをする恐れがあることや施設の火災など事故に繋がりますので改めて正しいごみの分別や減量化、資源化へのご協力に役立てていただけますと幸いです。

【調査実施方法】

① 調査場所

「市街地」「中間域及び郊外」「農村域」の3つの居住区分を選定
令和7年度調査

市街地	南仲町、親町
中間域及び郊外	石曾根、上ノ原
農村域	本郷第三、本郷第四

② 収集所の選定

1区分ごと2か所の収集所を決める

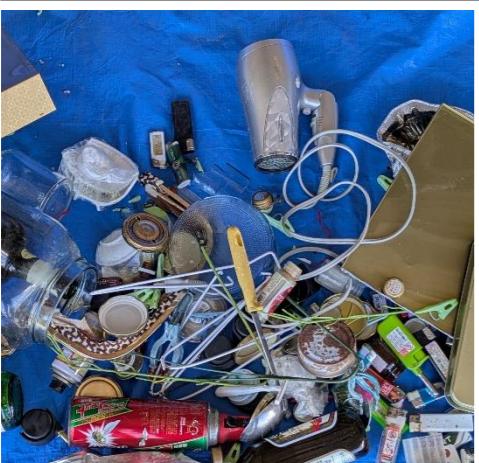
③ サンプル数

・可燃ごみと資源プラ 各2袋 ・不燃ごみ 1袋（無作為に抽出）

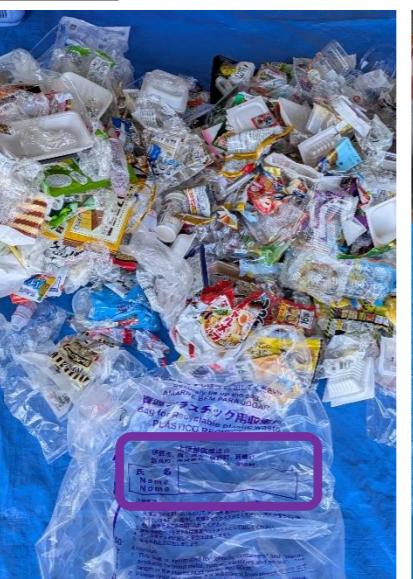
④ 調査時期

年3回（5月 10月 1月）

○やってはいけない間違ったごみの出し方例



× 不燃ごみ袋に小型家電混入
× ガスの残ったライター混入
× 穴を開けていないスプレー缶



× 無記名でのごみ出し



× 穴は開けているがスプレー缶のプラ部分を外していない（分別可能）

○分別作業後（可燃ごみ）



【小型家電等の混入】



調査した可燃ごみの中に乾電池が入ったままの「小型家電等」の混入がありました。回収作業員の事故防止のため正しい分別をお願いします。主な内訳はその他可燃ごみ 43%、厨芥類 27%、古紙 5%、プラ製容器 4%、小型家電 1%、不燃ごみ 3%、不適・危険 1%（乾電池、農薬の容器など）

○分別作業後（不燃ごみ）



【電池入り小型家電】



調査した不燃ごみの中に乾電池が入ったままの「小型家電」の混入がありました。回収作業員の事故防止のため正しく分別をしてください。主な内訳は金属・ガラス 50%、廃プラ 28%、各色ガラス瓶 12%、小型家電 5%、不適・危険 0.6%（乾電池、ガス入りライター）

○分別作業後（資源プラスチック）



令和7年度 環境衛生自治会視察研修会

○概要

ごみの収集箇所の管理・ごみ質の改善に携わるにあたり、収集運搬されたごみの処理過程を視察し、現状を認識していただくことにより、各自治会での啓発活動に役立てる目的で毎年視察研修会を実施しています。令和7年度は8名の各自治会厚生組合長に参加していただきまして視察研修会を実施しました。

○実施日 令和7年10月9日(木)

○視察箇所 上伊那クリーンセンター(伊那市富県3790番地)

敷地の広さ: 約24,800m²

施設規模: 118t/日 処理方式: 流動床式ガス化溶融方式

燃焼溶融設備: 神鋼環境ソリューション製流動床式ガス化炉+旋回流式溶融炉

余熱利用: 蒸気タービンによる発電(1,990kW)、ロードヒーティング

受入供給設備: ダブルピット&クレーン方式

排ガス処理設備: バグフィルタ、乾式有害ガス除去方式、無触媒脱硝+触媒脱硝方式



ごみクレーンの実際の大きさ(写真左)

パケット寸法は幅最大3.18m×1.6m



溶融炉を見学しています(写真右)

クリーンセンター八乙女(箕輪町大字中箕輪八乙女3819番地)

敷地の広さ: 約22,000m²

【中間処理施設】

処理できるごみ: 不燃・粗大ごみ・ペットボトル、缶、びん

処理できる能力: 破碎処理施設40t/日、ペットボトル減容施設300kg/日

【最終処分場】

埋め立てるごみ: 焼却残渣(飛灰等) 埋め立てられる量: 72,900m³ (最大)

【浸出水処理施設】

処理できる能力: 40m³/日

■上伊那広域連合(伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村)

